

松屋筆記

卷廿七

45
1397
11



門 45
號 1397
卷 11

昭和五年二月六日
高田早苗氏贈

松屋筆記



廿七

るんてん

松屋筆記卷廿七目錄

- ① 殿との仙藉
- ② 尾竹の交名
- ③ 弘法大師の以呂氏
- ④ 龍子石の字付用
- ⑤ 様字
- ⑥ かざりあはれ
- ⑦ ちりゆふ并ふと
- ⑧ けちささびと并土
- ⑨ 松極并極字

⑩ ツラフ 并物と云ひ
 ⑨ リももさう物く かい録と云ひ
 ⑧ かいとりの物
 ⑦ 師不教 而弟子習
 ⑥ 師不嫌人 弟子不嫌人
 ⑤ ハ音
 ④ 其川佐
 ③ 花 赤葉
 ② 僧 鳥 集
 ① 東遊

⑩ コソクンククン | コソクンククン |
 ⑨ クイ ひと云ひ
 ⑧ 面通と云ひ
 ⑦ 針 ひと云ひ
 ⑥ 針 の字
 ⑤ 針 ひと云ひ
 ④ 針 ひと云ひ
 ③ コタニカラ元
 ② 落用板
 ① 易三房

① 山崎 とうき 子 獲 禰 禰

② 山崎 始

③ 山崎 始

④ 山崎 始

⑤ 山崎 始

⑥ 山崎 始

⑦ 山崎 始

⑧ 山崎 始

⑨ 山崎 始

⑩ 山崎 始

⑪ 山崎 始

⑫ 山崎 始

⑬ 山崎 始

⑭ 山崎 始

⑮ 山崎 始

⑯ 山崎 始

⑰ 山崎 始

⑱ 山崎 始

⑲ 山崎 始

禰 禰 禰

松屋筆記卷廿七

松屋 高田與清文儒稿

一 殿上の仙籍

源平成吉思汗の御孫平家繁昌の御子
六代に諸國ノ受領ありトイふ其末殿
上ノ仙籍のニルヤズキ一ノ仙籍は
蔵人の唐名ニ指者抄申存考時
二蔵人の唐名ニ仙籍とあるを以て

二 殿上の仙籍

源平成吉思汗の御孫平家繁昌の御子
高田與清文儒稿

ありて尻付の文を一通も、昔書の鏡
廿一の表に於て除目開書に到るを
是趣に有る尻付も、昔書に到る尻付
ハ尻の書添のりし昔書鏡子アトツ
ケと判らるるなりとこシリブヤヒ
も、之れ一交名におあり人のみをも
載し書けりとの事

三 弘法大師の書は
伴信友曰若狭國遠敷郡野付
村の妙樂寺に大同元年空海師の

開可なり金巻の古本も亦存せり
棟札の字ありて南無阿
彌陀佛一七〇とあり今より大同五年
前柱の根にヤコノ柱根子〇あり
口々に合印ありとあり頼阿高
野日記に大工の柱の合印のあり今
も存あり
二 前記の字地用 俗説并誤傳

真佑雜記

古事談一の巻
テ石ヲ搦テサゲテオモシニテ跨本ニ懸
テ於教倉院國ニ來ラバ被納ケリ
三并繼テ
清書待厚
孝節書在初
十一年七月

日書同卷子知公院殿与又我大相
國於白川院即前給盃酌同白
東鏡撰二盃相國三盃左飲給其後院今
多ク之ニ
西宮紀四相
模ノ本
紅の巻盃記

四 猿樂

猿樂ノドコリ 猿酒イニハイ子トイフ
ハ候ヘキ 院今候 給テ又被勸盃ト
この二の猿樂サルガウト云キリ
この二の猿樂サルガウト云キリ
のあつと云キリ

五 猿樂

彦代氏 賢問曰 何なり ありと云キリ
は唯今の子ニ好ミ月ノ御マヤアリ好
のり此中ニ好ミ月ノ御マヤアリ好
此ノヤト云キリ 興清答曰 猿樂

信部二藤原道信朝也

のまうあむら今あきしはるるを

てそあき物に明しけり 少長原集玉記

そまねさうり のまう 恒位その服のま

ゆことま の歌 定むる口限あま

今のあねいあき接つとま 浪あき

物に明しけり とま 藤原清の

旨あま

あまうあむらりんらあまをたれと

うまの旅のま ま けり のま

ちよ字佐の何のやんをたれ ま

の歌の口野の定り ま 旅を ま

まの口野の ま けり ま

ま ま の ま

ま ま の ま

ま ま の ま

ま ま の ま

ま ま の ま

ま ま の ま

なすいさし

⑦ まるいほる并ムニナル

立徳物流土左日記なま子ありはる
とりのあり物々しき字鏡有る
の美抄部ニ並ニ若菜ニ同ニナル
ムニナルのアサルのクム。クフ。ムテモ
の。スリノエ。ソム。ヨク。ハサム。ク
ラフ。アサリ。ルカ。ムツ。ヤハラカ
シク。ムリ。タ。サ。河。二
河のムニナルはありはると同流とす

ムニナルの求流の歌

⑧ けちりきり并ニ若菜

宗鏡集の若菜部ニ並ニ若菜
並ニ同ニ今ニ武蔵相摸は
たなまニ若菜ニ白色の若菜あり信
新ニ若菜ニ平地ニ出ル若菜

⑨ 花櫻并櫻草

櫻もニ花ニ並ニ櫻草ニ
とこのやまニ若菜ニ若菜ニ若菜ニ
貴州部ニ若菜ニ若菜ニ若菜ニ

極草
世田谷私記

ふ今の櫻子のこりやあはん

⑩ ヲラフス

字鏡の事方老也部の改改同改
同ヲラフと何れも改子ヲラフは
生やや生い生出るあて
の略気なるフエフエをよめ
紫近紅見えハヒサカニ心とるや
民の義事とるなり
解生豆生粟生やと皆は心の

⑪ 何れもは権の心解る事

ホタモヤセ

酒飯師

古今の事聞集の巻二の事
つかりの事とる事と
人の増光房より
丁ラ白堂

⑫ かいじりの衣

今江戸の女の服のかいじり
の類は
の信奴いウチカとどより
の信奴いウチカとどより
の信奴いウチカとどより

記子傳水袖をいしとてと云ふらんを

①所不教而弟子習

残花抄子なるものやししい物の師のを

しつて子も習ふなり

②師不嫌人弟子不嫌人

残花抄子物をそのむ人し弟子はさすは

物のそりしつて師をかふらぬる也

⑤善

夜鶴庭刻物と老子金石縁井絶上

草木是とも言ふ子金石の方聲神

縁竹いぬきその吹物ハ狐ハヒサゴツ

ブリ也唐土管笛のハハハハハハハハ

土いけらるる心りこの物ハ草木ハ

鼓ハハハハハハハハハハハハハハハハ

清田大和やヤリあり清れハハハハハ

そらちくもあまらるるハハハハハハハ

のハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハ

吉風俗

續日本紀七の卷に於て大陽落神の
二國真人等云々風俗歌傳云々
云々云々云々云々云々云々云々云々
之雜伎云々仁和寺書目云々風俗譜
一巻云々拾芥抄上巻風俗部第廿
三有雜藝云々三代實錄三の巻に於
て廿二の巻に於て廿四の巻に於て
俗歌舞云々同書四の巻に於て廿
行々云々同書云々典清田風俗

國に土風の歌舞出り云々風俗云々
俗に云々云々云々云々國土の云々云々
の歌云々云々

神樂

三代實錄四の巻に於て
神樂歌傳に於て云々諸衛官人
類抄卷の加部人等云々神樂カ
音樂也云々古事始云々仲哀天皇元年云々
月神功定后遷宮吉日入清宮親為

延喜式
類聚目録

有きい餓を見たり加利の御道
加と名をいれ利を食するなり
さとい神戯加利を神代の古言の意
なり神戯なりなり神代紀と云ふ記
上古歌拾遺なりと云ふ也

六 催馬楽

三行寶録三の巻 弦子三層女之云々
以歌歌見符特善催馬楽歌諸
大夫及び年及好事者多就而習
之云々 和名打表曲調部の催馬楽

云々 催馬楽 律我歌
曲也 才水調曲也 拾翠學 律我歌
曲也 才高麗樂曲也 地久樂 律我歌
是也 才品波字類抄卷之左部 人事
門下 催馬楽 雙才 拾翠抄 上 催馬
學部 卷之三十一 仁和寺書目 催馬
樂 卷之二 是也 體源抄 卷中 催馬樂
上云 催馬樂 上云 學アリ 其アリ 事起り
此學ノ唱歌ニツクニ記出ス以上云々 學アリ
先ヤカラ哥ニシテ因ヨリ 音リクニクハ

我駒十云備馬堂是なり欲之馬之備
トカキルナリ云々備馬堂の苗
譜ハ藤原忠房依延妻聖主之勅譜
ヲ作ル等後世三ノ中智大輔信明指場
ニ譜ヲ作レルナリ云々此譜曰備馬堂
の名義賀茂翁ハ新張ことトイフ可ハ
尺直長ハ馬も備以と子孫子孫
トありしりるもとらふもさしけり
橋笠亮の随筆子備馬堂と子名号
の説もこれなき久和名抄子備馬堂

とりあふ名ありしり伏見殿子何つれ
たる世もなりし屋敷秋物のこゝろに
都るし備馬堂がらの備馬堂の抄子
譜てもとまの書ありおとるなりとある
るは多子つるく古譜子備馬堂の
筆譜あり世譜曰は後ハ藤原
忠房の作なりとるる備馬
堂といふありの書こゝろをまねて歌も
ありしりありおとるこゝろ根もこゝろに備
馬堂も名号ハ何れハとて確
論

⑤ 東遊

五代實録 一の巻十 東遊 藤原氏
和漢名菜下巻 十 殆子あつたあまの
身はまゝくまらぬくく せりくく
初解 藤原氏 子東遊歌集を
載り 藤原氏 二丙辰記云人王
其代 安閑天皇 中宇 教到 六年 丙
辰 駿河 國 宇 戸 彦子 更人 更まゝく
歌集 藤原氏 せりくく 東遊 せりく
あまの 移移の せりくく せりくく 用き

云々 拾芥抄 上 凡 佐部子 東遊 云々

⑥ コソグル クスグ ル コソクニキ クスグ

コソグル クスグ ル コソクニキ クスグ

今 俗子 ツスグ ル クスグ ツイ とりみ 氏上 方
人ハ コソハ ヤイ コソクニキ せりくく 出
海 平 倉 裏 記 廿二の 巻 廿二子 小頭 小 脇
ヲ 撥 詰 テ マコ とある 詰 とり子 討 色
音 せりくく ツスグ ル ハ サレク ル コソハ 音 せりくく
也 ツスグ ル クスグ ツクニキ 亦 通 び せりくく
物 の ツスグ ル 音 せりくく せりくく 撥 詰 とり子 討 色

身鏡面道
フアルガモテ
るに我が

リヤギ堪がタキもキルとらるる子こしりて

(世) 面道とる

今依子少んぐりと云ひあり
源平盛衰集
記世三の卷 行子娘が見スル面道也
景用身女部子面道
景自免部子面道
面道 岸出也

(世) 付けとる

依言子仕はけり
りあつたの
子とる

るのりちやまらつるふの

はるのい
たりとる

(世) 銘の字

源平盛衰集
人目ツツ
地フベと
字記の銘
と中ラ、カ
たよみ
銘ハ

又指卷四
オハハシ
レリ
知、字
後ルル
日四六
ニテオ
世の
銘目出カリ

④ 飢と云ふ

空穂物落あてふや 世にふふ地を
さくおつてふき塔とむきい目
まきまき 強いのとむきやうけい
人らふあえふの子やせんさきこ
めのゆき けいけい けいけい けいけい
目録の下 けいけい けいけい けいけい
けいけい けいけい けいけい けいけい
杉のまき けいけい けいけい けいけい
穂初落 けいけい けいけい けいけい

一 けいけい けいけい けいけい けいけい
てき けいけい けいけい

阿弥院 けいけい けいけい
新撰
字鏡 米部 けいけい けいけい
何比 頃久 けいけい けいけい
くヒスグ けいけい けいけい
人ラモ 鳥の けいけい けいけい
生 けいけい けいけい

(註) 存因

日蓮宗の
存因ヨシユ
と云ふは
此の存因
ありと云ふ
なり

和名抄の卿名に存因といふは
存因に蝦夷の擧げられたる
その擧げられたるは良民とせん
て國との交結にあかき田畑の
間やめとていふも是れ存因
の存因といふことなりと云ふ
盛衰記曰く五の巻に
嶋比存因千嶋と云ふは
嶋比存因と云ふは

(註) コタへルコラへル

俗言に堪がたりと云ふはコラへラシヌオの
クモツツともコラへルといふコラへルコラへラ
シヌオといふは海平盛衰記曰く
の巻に小松内大王殿といふも
能人ニテ父ノ大なる餘を儲事セラシ
テ初シキテ平家ノ世ハカタフニシテ
ナル父ノ後マテ出テ何ニカセシ命ヲ
ト然野々系ヲ被新々ニ程モナリ
物ヲヤシケレ其様アリテ

予記結すとありしに、みせにコタフて記
ハカル、又ノ後ニテとあり、コラハル、
昔のつたつ、心、思、記、下、
ラ、ル、と、記、下、
ハ、と、記、下、
コ、

① 清用振

清用成書記十の巻、
ノ前ニ、
ノ目ニ、

不、
駿、
の、
清、
は、
の、
考、

② 男房

男女房の房、

こまや盛衰記十の巻北行の女方易方
とまこり

⑧ムツチ地このく并積良禰

盛衰記十の巻^{世三}二鬼界嶋のありさ
中地しつる西の嶋ノ位人上覺シテ木ノ
皮ヲハ子カウラトメ顔之巻赤禰ニテムツチ
ツカキ身こいもたう長ク生テ長ハ七尺
計ナル者リ思タリキ^{世三}の巻積良禰

⑨まは始まな板

同巻の巻世三子春宮ノ内袴若所

美味記
世三

二板下三下ナニク

マナ始^{世三}三始ハ^ク喉初^ハ実味^ハ上

⑩所奇始

盛衰記世三行子帝王^下居ノ後ハ所
奇始^ト内御諸^アル事^ト侍リ神社
佛寺ノ間^モイヅク^ハモ思召^ス所座^ニ候
ハカ^ニ下^ラ差^ス所^ト行^キ天子御幸
ハ上^ノ皇^ノ子^ノヤ^チ也^ト所^ト奇^ト始^トシ^ト

⑪博若馬

同世三^イ子^マ上^ト去^ハ博^若馬^ノ免^角
ツク^ヒ飼^ヒ京^出ガ^リ首^ヲモ^ナ

折奉侍りしかハヤ垂指テ物ノ用ニ
難^シ可^クス^ル

⑤ 助^ト柱

伴^ト加^シ 同廿三^ノイ^ハ秋^ノ子^ノ平^ノ家^ノト書^テハヒラヤト云^ル家
物^ト代^トハ^シ 一^ノ口^ノ比^ノ例^ノニ^スル^ニ三^ノ助^トト云^テ柱^ノ代^トハ大^ナ丸
木^ヲ以^テサ^シハ直^ス一^ノアリ^テ平^ノ家^ノ大^ナ好
軍^ニ下^シ五^ノハ^シ権^亮サ^シ好^ク後^ク之^ハ右^ノ大
将^ノ宗^盛ノ^ノ駿^ノ歎^ムフ^ラニ^ト云^フコ^ソハ^テ
ヒラヤ^ノ丸^ノ子^ノモリ^イカ^ニサ^ワク^ラニ^テ柱^トナ^リ
ム^スケ^クハ^シ落^シテ^テ
中^ニ行^ク 苗^ノ竹^ノ云^フ 〇和^ノ也^ハ五^ノノ^トナ^リ

⑥ 想^ノ因^ノ分^ノ寺

同廿四^ノ花^ノ子^ノ東^ノ大^ノ寺^ノハ我^ノ祖^ノ想^ノ因^ノ分^ノ寺
ト云^フ金^ノ光^ノ明^ノ曰^ク天^ノ王^ノ護^ノ國^ノ之^ノ寺^ト辨
ス^ク

⑦ 宗^ト徒^トの^ノ者

宗^徒の^ノ者^トト云^フハ^シ〇^ト云^フ人^ノノ^ノ一^ト也^ト
棟^ノ人^ノの^ノ略^ノ信^ノニ^テ是^レ其^ノ記^ト也^ト子^ノ棟^ノ人^ト
ノ^ノ兵^ノト^ス之^レ也^ト徒^ノの^ノ字^トハ^シ假^ノ字^トニ^テ宗^ト
ハ^シ峰^ノの^ノ通^ノ音^ト也^ト辨^ノを^ノ考^テス^ルハ^シ云^フ棟^ノ
ノ^ノ子^ノハ^シ亦^ノ同^ト

廿四 氏文

同廿七 薩子富部三郎申ケル和春
 軍ノアシカシ氏文讀コト思ヒケルカキ
 氏文ニ系富系長ノ子ノ日存紀子高
 橋 氏文何とあるニモシ又木抄子歌
 子ノ澤塔子其名以我ナリ
信田要子子
 目司ありし由
 こんどまあり
 ちふはの秋五
 ありしきの梅
 所おつの内孫相
 馬の宮子信田
 のおをひちありし
 氏文せしよなる
 ありしき

山ノ堂社記
 宜珮伝記ニ
 朱鏡

卷數の子イ何物自丈ニ盛衰記聞
 書子イナリトモトハ明クモ下ニ盛衰
 記其ノ卷ハ薩子梅ノ權ニ卷數付テ

ク人ノ大ニ好年ノ門出ラ祝ヒテ嚴嶋
 ノ神主ノ目出キ印ノツラリシ有コト
 子也又卷數物トイハ書群書數
 從ノ出ラリ覺祥抄子卷數の
 子イコキクモム考フ

廿六 およみ抄

物持子おあはけとイハルおあう小道ノ
 おいしき
 若海老付のいといとる
 九廿丁子安家ニサセ書又若武者也

高橋の老スゲ丸に大カ也ケレハ云こと
ありハ老スゲ丸のおりばハし言ふ老
附の義毛おれづきこころこつとスルを
考し

④ 女のみ杉

土左日記廿九日のあまのあまのえい
る
あづる風今の子のあやめは
海杉をなまらうまゝのこひ釈古片
を結一すいん句海杉をそしく

つうけりともが 賀茂保憲女名
いしな生さしみ杉根のしむと年
きまけさるしあありあの忠度法師
自ふる石まふみまのあひさるると
みんやあさ
こゝろにまといしぬをねみ杉の
あやめいさるる海杉の歌後
今頃都る出さう海民渡標子
こみまらやいさるるあやめい
あまのあやめいさるるあやめい 夫木物

けふの浦のきるこぢうとみねを
ふきよめぬえきいこえはる日暮廿六
ころのゆるりのるいづきこほりあま
しみねをのみまやよめんいね海
ねもよめる歌あり和名抄子海松
和名義海とあるよりいね水松のこし
けりゆきると水松とみね松別物
とまこゆ海の中松のけり一本一葉
ありその質ありて色あり大木

とあるありて大木奥州菊田の海邊
まこみまるとい一種の松あり色は
青黒白の雜色あり大木の海松と
別ことよあることありていね松の乳
見ゆ時をよめる陰いねありては
えん尚可なり意度松の質あり大木
川をなすの女けりしみねとよめるな
海松院をうくることありと海松と
木のありまねをうくることありては

① 名主百姫

盛衰記四十二行の所ノ名主而姫
カ集リテ月次ノ講答トテ大綱モリ
ナラベテ立テ存ハントシケルガ長百姓ハ
善トホナ者者トアトキラフマキ
書事院モ名主トモ西名主ハ名田カ
何トモちんそり出百姓マツクセ作徳
地持^{地主}トモいふ名田トイふハあり
名帯モおの田ト云我ハ名田おる
おる地大石トイふ百姓ハ平民ハ
長百姓ハ平民ノ中ノ長トイフ者

といふ小名ハ名田と云くおるこい
可く云ミヤウイハ^人ハあり
これ税田トモ年貢地地おるは
今の大石旗^中トモ云い

① 舟の揚を取

舟あつる水と今ハ舟の揚と云い
了らつゝ舟の揚ト云リ盛衰記曰
ナニ行^{コト}ア

② 袖

盛衰記曰三ツ行ノ柳ノ上^子紅袴

行集
三ツ行

暑テ袖笠カヅケル女房カク社
此よりしししし日ヲ付カ
三ツノ谷
集四ノ文

③ 金剛カキの頭引

盛衰記四十二代子金剛カキノ頭引
引トフオホエタル云々ニ王ノクビ引

今しりあし

④ 最後の文并後乞

同三四十世子最後ノ文とある處
此三四十二代子後乞とある處

⑤ 諸国神社階位

諸邦記
國大曆
不備社位
廿三下

盛衰記四十三代子諸国の社位増

位階とあり例とあるなり

⑥ 和僧

今依僧ともいふらんしラニヤク
と云和尙の字子あり和僧の記

盛衰記四十六代子和僧ハモトキ良

法師とあることいふ外亦也

⑦ 守護識の國司のりありて公卿の

國の軍役のりを司
兵部來を

諸邦記
國大曆
不備社位
廿三下

備思言訓 取の役こ地頭い左園を拜領し

下志才才才 領家の人の代官子並で庄園の

領家の地子居住し軍役地司より兵糧米

代取定る役こ除多成巻記四十二世

大平記梅松満りと久え之庄

領と領家の知りこ国領と目

司の知りこ国司の代官も下司とい領

家の代官も

左官りとも

事録四世子世用之

来鏡
國領建曆
宣旨号り

玉海文信元年二月
十二日のみあり院宣備

家巧後逐領

西由之同を三日於大物濱急途逐川言し津波之中預有汎園之命之幸洲を孤疑早仰有勢
此所之世中言提心林川澤之同不可合召進其身當園之中至子國領者任此状を
遵行於左園者弱左所致此は是嚴者也勇勿懈後者院宣如此美之謹状とる

Handwritten text in cursive script, likely a signature or name.

Handwritten text in cursive script, likely a signature or name.

Handwritten text in cursive script, likely a signature or name.

Handwritten text in cursive script, likely a signature or name.

Handwritten text in cursive script, likely a signature or name.

Handwritten text in cursive script, likely a signature or name.

Handwritten text in cursive script, likely a signature or name.

1912 No 2

Eschscholzia

1882-1883

1884-1885

1886-1887



